



宮城県東松島市の仮設でパラソル喫茶
20日、NPO法人「おひさまくらぶ」がパラソル喫茶を開きました。
せんだい・みやぎNPOセンター（本文参照）は、宮城県内のNPO法人を支援・調整しています。

2011年7月21日（財）日本老人福祉財団
103-0012 中央区日本橋堀留町1-7-7
Tel:03-3662-3611 Fax: 03-3662-3656

2隊員は「ふれあい隊」ボランティアに、隊長はニーズ調査

第16次隊レポート⑦【21日（木）07:20】

●7月20日（水）。17次隊の単独支援活動初日です、派遣隊の通算活動は115日目になりました。天気は曇りのち雨、気温は17℃。台風の影響が心配されましたが、小雨が降る程度で大きな影響はありませんでした。

●16次隊は朝遠野駅を発ち、東京⇒各くゆうゆうの里へ帰りました。本日より17次隊単独での活動開始です。介護経験豊富なS隊員、おっとりマイペースなU隊員と力を合わせて頑張りたいと思います。



「がんばっぺ！大槌」シャツを着て遠野駅から帰還する16次隊3名

●本日は入浴支援がありませんでしたので、隊長は今後の支援のあり方の検討材料を確かなものにするために各団体から情報収集を、S隊員、U隊員は「遠野まごころネット」のふれあい隊ボランティアに参加しました。

大槌町社会福祉協議会

- 大槌町社会福祉協議会の業務課長さんとお話をしました。
- 8月1日より、安否確認やニーズの拾上げ、ニーズを関係機関に繋げるために、生活支援相談員を仮設住宅に訪問させる予定である
- 職員募集はかけているが、なかなか集まらない状況であり、「くゆうゆうの里」から生活支援相談員を出していただくと助かる。」との話。
- 生活支援相談員は、ニーズの掘り起こしやスムーズな対応が出来る事が条件。社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、などの資格を持っていることが望ましい。
- 県の事業であるため、所定の「アセスメントシート」等を使って、調査を行うことになると思われるが、詳細はまだ把握していない、とのことでした。
- 相談員への参加が可能であれば、8月始め頃にも社協職員、社協の協力団体、ボランティアセンター、ゆうゆうの里、（もし聖隷も出していただけるなら聖隷も）含めて、調整のための会議を開きたいと要望がありました。

グループホーム型共同生活ホームについてなど

- グループホーム型共同生活ホーム等の状況についても、お話をしました。
- 仮設での一人暮らしが難しい方などが、入居対象になる予定。希望を聞き、移ることになると思われる。
- 運営主体の委託先は、まだ正式には決定していないが社協が担う事になりそう。議会を通らないと決定せず、いつオープンするかは、はっきり分からないとのことでした。グループホーム型生活ホームは以下の場所に設置されます。
 - ・寺野地区、1か所（定員10） 現在建設中、サポートセンターあり
 - ・和野地区、2ヶ所（定員20） 建設完了、サポートセンターあり
 - ・浪板地区、1か所（定員10）、建設完了、サポートセンターなし
- 大規模な仮設住宅では集会所があるが、小規模な所では談話室のみである。まだ、殆ど使用されていない状況。今後は地域交流の場として、カフェや介護予防の体操等もやっていければよいと思うとのことでした。

遠野まごころネット

- 「遠野まごころネット」副代表とお話をしました。

●まごころネットでは、「まごころの里」構想の実現を目指しています。「まごころの里」とは、地元の木材を利用した住宅を建築し、自然農法などを活用した農林水産業の再生、研究施設・研究者の誘致、自然回帰型イベントの企画運営なども行って観光客を誘致する。さらに、雇用を創出し、高齢者や障害者のどの生活支援も行う…という、総合的な復興（復旧ではない）プログラムです。

- 「まごころネット」では、「まごころの里」建設のための土地は3箇所確保したとのことでした。
- SOSカードを仮設住宅に移された方にお渡しし、困りごとの受付などに使う。仮設の集会所を利用してのカフェや、体操など…多くのお話をしました。大槌町社会福祉協議会のお話と重なる部分もあり、支援の方向を明確にするための貴重な情報と受け止めました。
- また、静岡県ボランティア協会の小野田常務さんともお会いしました。小野田さんからは、8月1週目に国土交通省政務官が遠野に来る予定で、主だった支援団体には会議に参加してもらう予定。老人福祉財団にもぜひ参加して欲しい、仮設住宅に移られた後も、介護に関するニーズは沢山あると思う。しっかり頑張ってくださいと激励されました。

ふれあい隊（タッピングタッチ）ボランティアに参加

- 今日は時折雨模様。津波で流された街が濡れている光景は、震災時のことを想像させ、また転々と立つ赤い旗が雨に濡れ、重く揺れている光景に、押しつぶされてしまいそうになります、ここに来た意味をよく噛み締め、支援活動をしていきたいと思います。
- 今日は「遠野市ボランティアネットワーク」の、「ふれあい隊」の活動に参加し、避難所に赴き「タッチタッピング」を行ってきました。「タッチタッピング」とは、手のひらが体に触れるか触れないかの位置に当て、その後、指先の腹の所を使って、軽く弾ませるように左右交互に優しくたたく方法で、心と体の緊張をほぐすものです。体が温まる、安眠の効果がある、といわれるものです。
- 大槌町城山公民館に避難されている3名の方に行きました。「温かくて気持ちいい、ありがとね。」と喜んで下さいました。大分から車で来た男性、滋賀から来た女性など、さまざまな方と一緒に活動しました。疲労感もありますが、感謝一杯の一日でした。明日からも頑張ります。（S隊員）



- 朝早く16次隊の皆さんを見送りました。不安な思いもありますがそれに負けずにこれから頑張っていこうと思います。
- 城山公民館で、4名の方を担当しました。横になったり、椅子に座ったりと様々な姿勢でタッピングをしながら、様々なお話をしました。「不思議だなあ。指が触ったら、そこからあったまるようだなあ。」とやっている間、何度も繰り返し、最後に肩こりが楽になった、と笑顔でお礼を貰いました。（U隊員）

1,300万円を超えた募金の使途（支援金②）

- 3月22日には、特定非営利活動法人「せんだい・みやぎNPOセンター」へ30万円を送金しました。
- 「せんだい・みやぎNPOセンター」は、宮城県内のNPO法人を支援しコーディネートする目的で設立された団体です。震災支援活動では、多くの団体を結集して「みやぎ連携復興センター」をいち早く立ち上げました。また、「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト（つなプロ）」、宮城県内の支援活動を支える「はばたけ！みやぎNPO復興活動応援基金（はばたけファンド）」の立ち上げなどにも中心的な役割を果たしてきました。宮城県内の市民活動を支える役割を果たしています。（理事長・田島）